

令和5年度

医学部看護学科  
社会人特別選抜

小論文

---

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 落丁・乱丁・印刷不鮮明の箇所がある場合は、申し出ること。
3. 解答はすべて別紙解答用紙のそれぞれの解答欄に記入すること。
4. 解答用紙の指定された欄に、忘れずに本学の受験番号と氏名を記入すること。

問題は次のページから始まります。

※ 最終ページに草稿用紙を添付しています。

令和5年度 三重大学医学部看護学科 社会人特別選抜  
小論文

問題用紙 ( 1/1 )

問題I 以下の文章を読み、問1と問2について、解答用紙に答えを記入しなさい。

「性の多様性」の学びはいつからか

セクシュアリティや「LGBT」を含む「性の多様性」の学習は、小さな子どもたちにはまだ早いといわれることがある。しかし現実には、小学校低学年の子どもでも「オカマ」や「オネエ」、ときには「ホモ」や「レズ」という言葉をつかって、笑いやからかい、いじめを行っている。つまり、小さな子どもたちは、「性の多様性」について何も知らない状態にあるのではなく、社会的に「規範」として考えられている「女らしさ」や「男らしさ」から外れたり、同性に好意を寄せる人は、「オカマ」や「オネエ」といって笑ったり差別してもいいのだということを、すでに知っている状態にあるということである。したがって、「らしさ」や性のあり方はいろいろなんだよ、ということ子どもでもわかるように伝えていくような人権教育が必要となる。

もちろん、大人に対しても同様である。子どもたちがすでに性的マイノリティの存在を「笑いの対象」として知ってしまったのは、そういった社会を私たち大人がつくってきたからである。

「私たちの性の多様性」を学ぶ

このような人権教育の場では、「性的マイノリティについて理解しましょう」「LGBTについて知ろう」といった学習テーマが掲げられることがある。しかし学ばなければならないのは、そこではない。さまざまなセクシュアリティを生きる私たちは、その「私たちの性の多様性」について学ばなければならないのだ。

この社会で「多数派」として位置づけられるシスジェンダーかつ異性愛の人々は、はたして自分たちの性について知っているだろうか。読者の中で「シスジェンダー」という言葉を知っている人はどれだけいるだろうか。私たちは、身体に性別違和を感じなかったり、異性に性的欲望を向けることを「普通」といい、それ以外のものの「原因」や「配慮の方法」を問い、「普通」自体を問うことを怠ってきた。シスジェンダーかつ異性愛というあり方は、私たちの「性の多様性」のあり方の一つに過ぎないにもかかわらず。

現在、私たちの社会では、さまざまなセクシュアリティの人々が、個々のセクシュアリティを大切にしながらどのように生きているのかということが見えてこない。つまり、子どもたちも（大人たちも）自分たちのロールモデルがない中で、不安に駆られながら、時には差別といった暴力に晒されながら、その結果、自己を否定しながら生きていかざるを得ない状況にいるのである。

LGBT: レズビアン (Lesbian: 女性の同性愛者)、ゲイ (Gay: 男性の同性愛者)、バイセクシャル (Bisexual: 両性愛者)、トランスジェンダー (Transgender: 身体の性と性自認が一致しないため身体の性に違和感を持ったり、性自認と一致する性別で生きたいと望む人) の頭文字をとって組み合わせた表現

出典: 渡辺大輔. みんなで「私たちの性の多様性」を学ぶ. Business Labor Trend. 2017年2月号, p 14.

問1 筆者の意見を200字以内で要約しなさい。

問2 特定のマイノリティの人権が尊重され、安心して生活できる環境の実現のためには、どのような取り組みが必要であるか、あなたの考えを300字以内で述べなさい。

[草稿用紙] ※ 切り離して使用しても構いません。



